

「おいしい水づくり計画」に基づく主な施策の取組み

	施策名	具体的な施策	これまでの取組み状況
おいしい水づくりに向けた技術的な取組み	p8(1) よりおいしい水をつくります (高度浄水処理の拡大)	①ちば野菊の里浄水場の稼働 ②ちば野菊の里浄水場と栗山浄水場のブレンド ③利根川系高度浄水処理実験	【達成状況】 ①「ちば野菊の里浄水場」は、オゾンと生物活性炭を用いた高度浄水処理施設として、平成19年10月1日(施設能力日量6万トン)通水を開始した。給水区域は、東葛飾地区・葛南地域で、施設整備の基本方針としては高度浄水処理施設のほか、太陽光発電によるクリーンエネルギー、バリアフリー化等を導入し、配水池上部は県民が利用可能となっている。 ②「ちば野菊の里浄水場」の稼働により、全体の給水量に対して高度浄水処理水の占める割合は29%から35%に増加した。また、ブレンドの効果により高度浄水処理水を利用できる人が、松戸市を中心に、市川市、船橋市を含めた全体の80%にあたる約228万人の県民に給水可能となった。 ③高度浄水処理実験は、実験期間が平成17年8月～20年3月の3ヵ年、実験プラントの設置場所は木下取水場、施設能力は日量200m ³ 3系統。実験内容は、安定した浄水処理と安全な水道水の確保を目的として、オゾンと生物活性炭を基本とした効率的・経済的な処理方法の確立に向け実験中。
	p14(4) 更なる残留塩素の低減化を進めます	①配水系等毎の塩素多点注入方式 ②配水区域細分化による残留塩素調査	【達成状況】 ①塩素多点注入方式を導入するに当たり、費用対効果、送・配水量の多さ、配水系等の機能分離性を考慮して、平成19年度は柏井浄水場・菅田給水場・園生給水場において基礎調査を行い、20年度に実施設計、21年度に工事の実施を予定している。なお、20年度は栗山浄水場、北総浄水場、福増浄水場の基礎調査を予定しており、5浄水場・関連する給水場を順次計画的に実施する。 ②配水区域の細分化(ブロック化)計画では、現在の33ブロックから、水の流れが分かりやすく、水量や水圧、水質などを管理しやすくするため、平成21年度までに62ブロックに分割します。福増浄水場系は平成18年度に5ブロックに細分化されており、この地区をモデルケースとして残留塩素低減化作業を進めている。この作業結果を踏まえて平成20年1月から残留塩素濃度の低減を目指す。
	p13(3) 安心して飲んでいただきます (水質監視の強化) (水質管理の充実)	自動水質監視装置の増設	【達成状況】 給水される水の監視体制の一層の強化を図るため、来年度までに自動水質監視装置を配水系等毎に24台設置する。当該装置は、残留塩素・色・濁り・pH・水温・水圧の水質情報が的確に常時把握できる検査機器で、これまでの作業では監視ポイントとして最適な設置場所の選定が終了した。今後、水質事故等に対して迅速な対応を図るために、水質情報の常時把握と緊急時対応を目的としたデータ収集装置を検討している。
	p12(2) おいしい水をおいしいまま届けます (貯水槽水道の適正管理)	貯水槽水道巡回サービス	【達成状況】 現在、県水道局の配水区域内には2万1千箇所の貯水槽水道があり、平成19年度は約4,000カ所の巡回サービスを予定している。8月末現在、712カ所の貯水槽水道において水槽の内外部の点検や水質検査を実施した。なお、22年度末までに全ての貯水槽水道の巡回を実施する予定である。
おいしい水づくり キャンペーン	p18(1) おいしい水づくりの取組みを積極的にアピールします (2) 水道水の安全性やおいしさを体験いただく機会を提供します	【第1回懇話会以降の実施状況】 ①積極的なアピール ②体験機会の提供	【達成状況】 ①おいしい水づくり計画のオフィシャルサイトの閲覧数は、9月末までの約半年で「約12万件」、毎月のクイズ応募者数は約600件、メールマガジン登録者数は約1,100名に達している。また、マスメディアのPRとして、テレビ、新聞で取り上げられ、文字メディアとして県水だより等でPRしている。 ②8月には、「夏休み親子浄水場見学会」を実施し浄水場見学会で、利き水(残留塩素の違い)を実施した。また、「まちかど水道相談」は、現在まで計9回実施し、試飲・アンケートを実施している。試飲実施数は約1500名、アンケートを通じた相談実施数は約2,500名となっている。利き水の結果、水質目標値である残留塩素濃度「0.4mg/L以下」であればほとんどの人が塩素のにおいを感じないことを確認した。今後は、水道学習モデル校を選定し、小学生を対象とした「水道出前講座」を試行的に実施する予定。
お客様と協働した取組み	p20(1) お客様の意見・要望を踏まえ施策を進めます	①ウォーターメイト制度	【達成状況】 ①ウォーターメイトは、本年4月「県水だより」などで公募し、440名の応募の中から52配水区域60名を選定、委嘱した。更に、応募の無かった10配水区域のうち、5区域5名については8月31日に追加委嘱した。なお、残る5区域5名については、当該区域にお住まいのお客様から選考するため調査を進めている。また、お客様からの水質データ・感想等の報告が7月から始まり、9月末までの3ヶ月の調査結果では、「おいしい」・「ややおいしい」合わせて42%の回答があった。